



筆勢武者硯

三



筆勢武者硯卷之三

一 土佐坊堀川夜討

一 篠原合戦

一 義貞謙倉責

一 小栗判官曲馬

一 海人玉取

一 平山三草合戦

一 盛久の奇特

一 楠正成

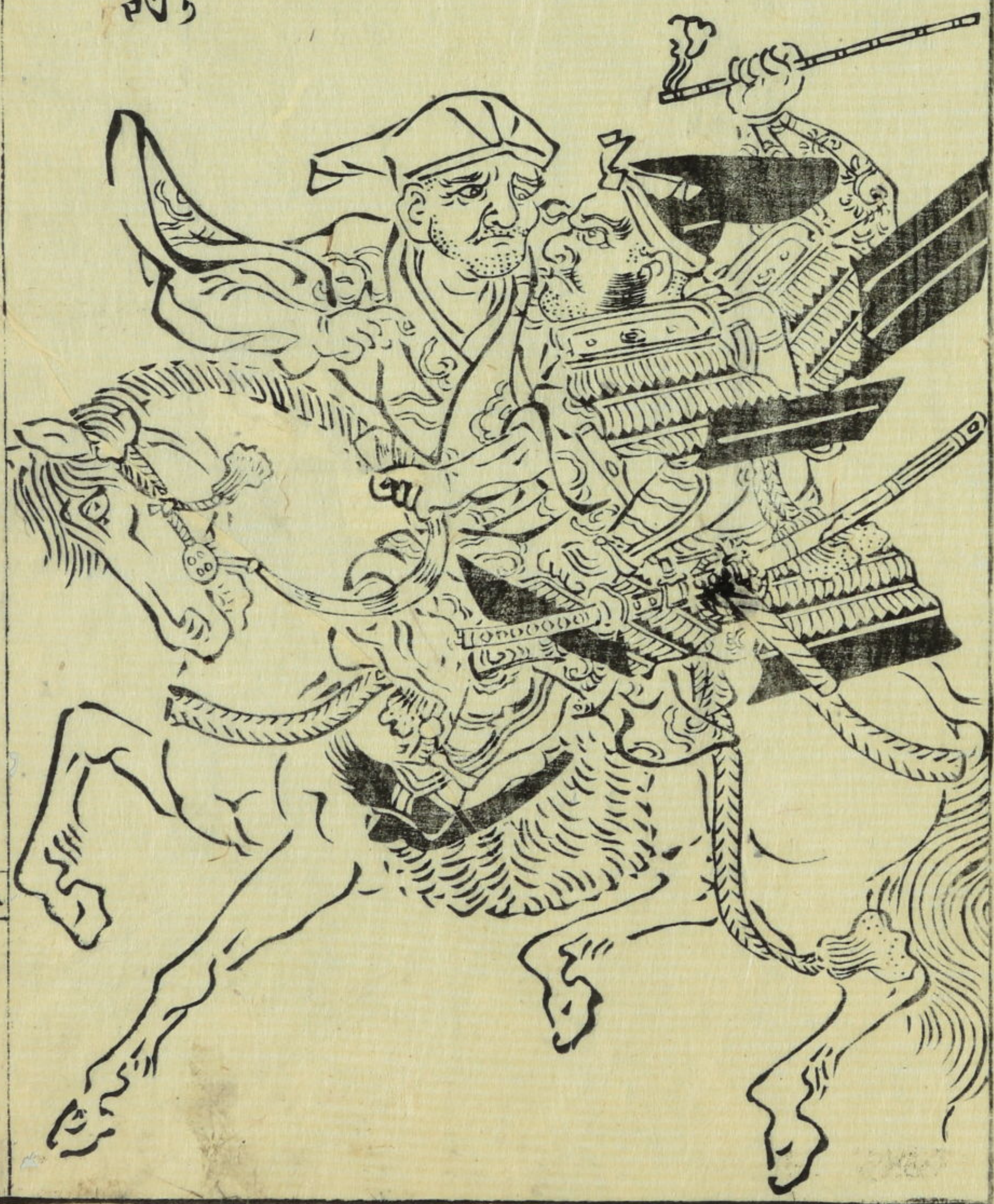
一 大友真鳥

一 浦島太郎

堀河夜討

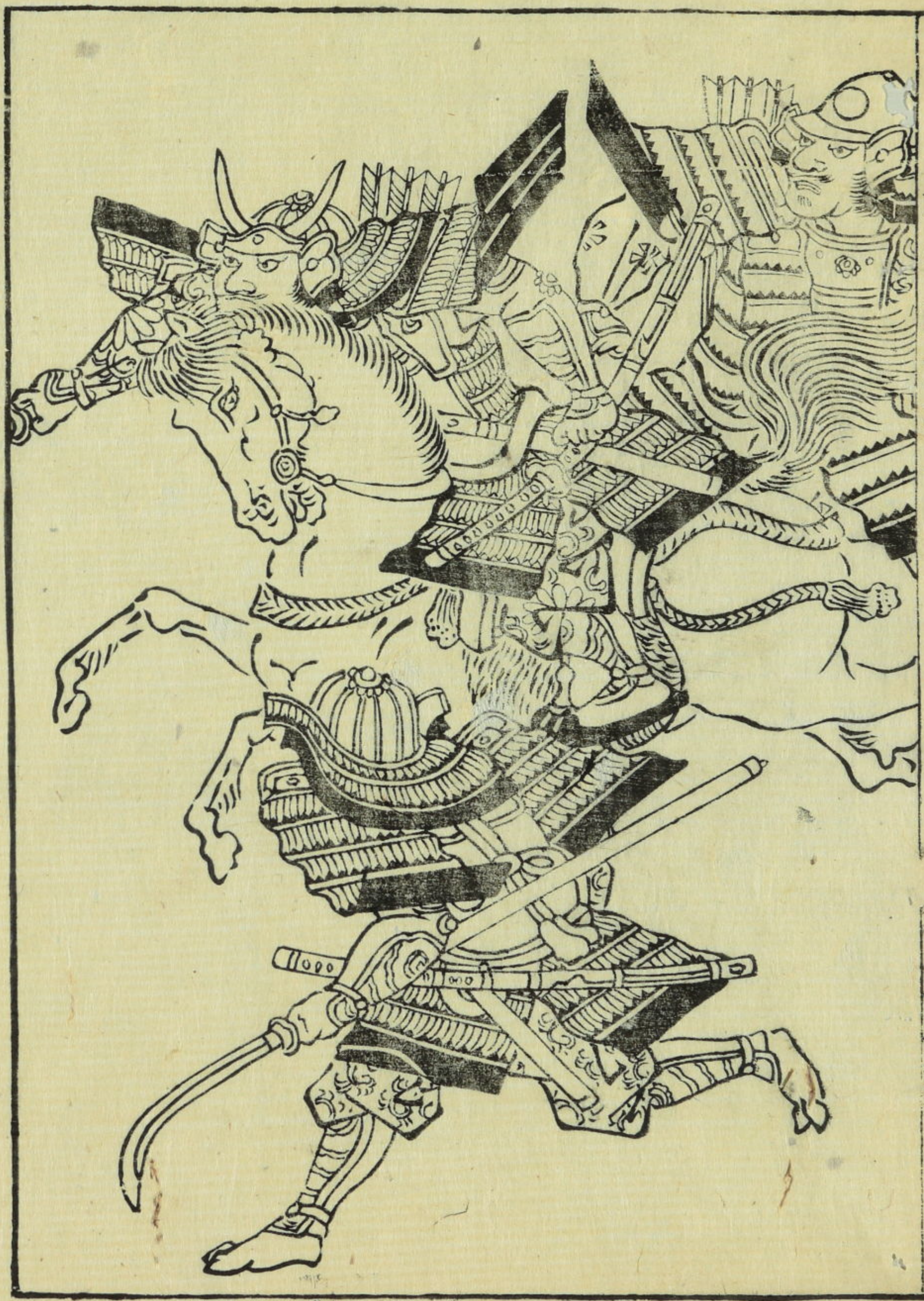
源義隆ハ平家朝を亡シ於入てほ望を守護一給ハ民を接育一給ハ
 其れハ多クハぬ其れハ多クハなるなり其れハ終者ありと相約下上けりい義隆と
 那ふおつバ之可くいぬと成金一其れハ討の老いなりとて去他防正後を以て
 計畧此ふ戸合去他防ハ給ふのかりぬ事内也一其れハあり之故に義隆と
 似して去他防を以てせんとして義隆ハ老いなりとて去他防正後
 を馬小のせて奔るその馬小ハ堀河ハ川を渡り義隆の山前を暫留
 せられぬもてらんとして正後ハ旅者御小ゆりりる主夜正後大御とて堀河
 小行しとてりる義隆ありとてらんとして又門ひらきとて打出給ふとてりる
 白旗子甲冑とたのり義隆ありとてらんとして又門ひらきとて打出給ふとてりる
 其れハ義隆とてりる源八つねとてりるけり其れハ去他防正後なりとてりる
 其れハ義隆とてりる源八つねとてりるけり其れハ去他防正後なりとてりる
 其れハ義隆とてりる源八つねとてりるけり其れハ去他防正後なりとてりる

堀河夜討





三草合戰



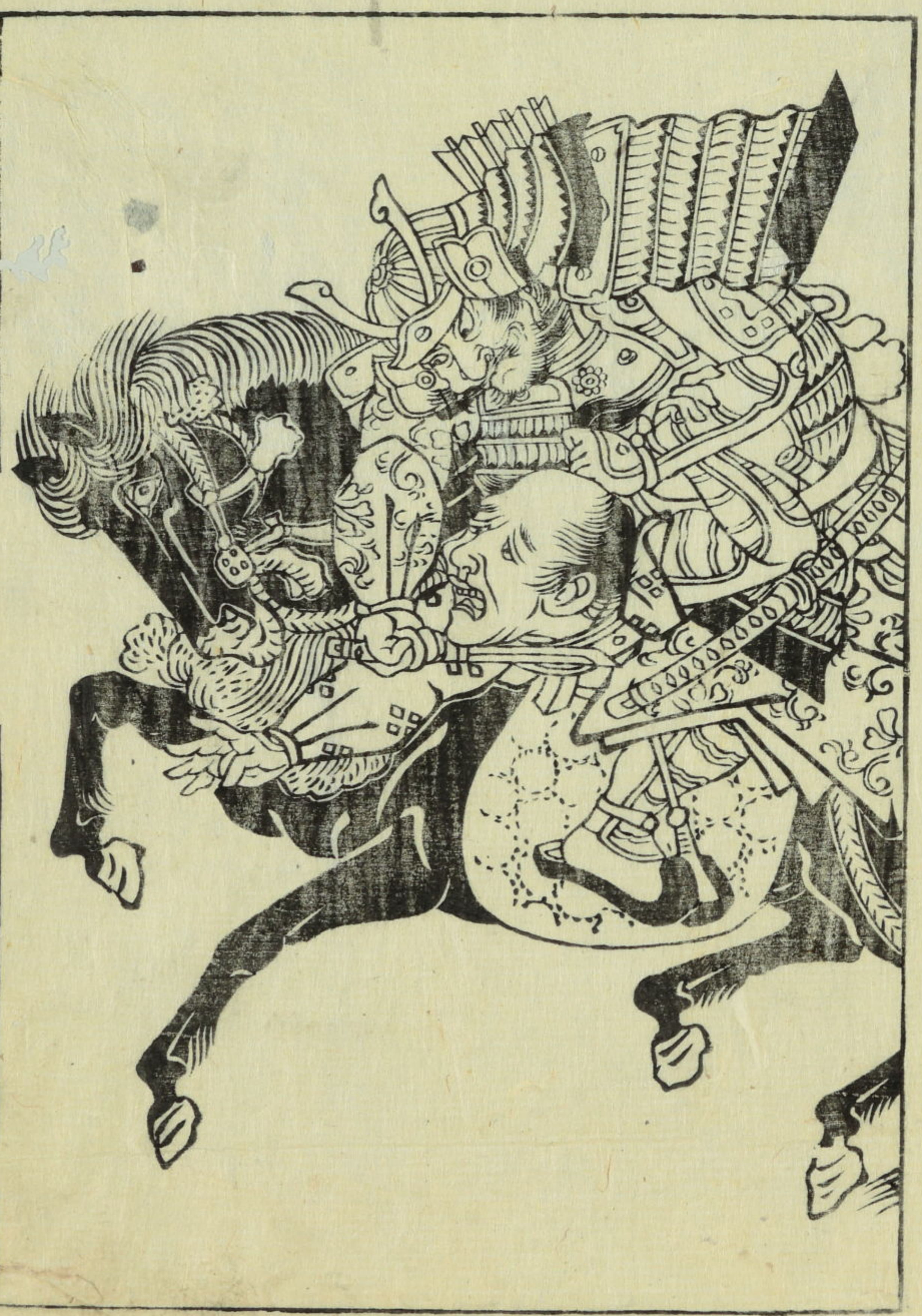
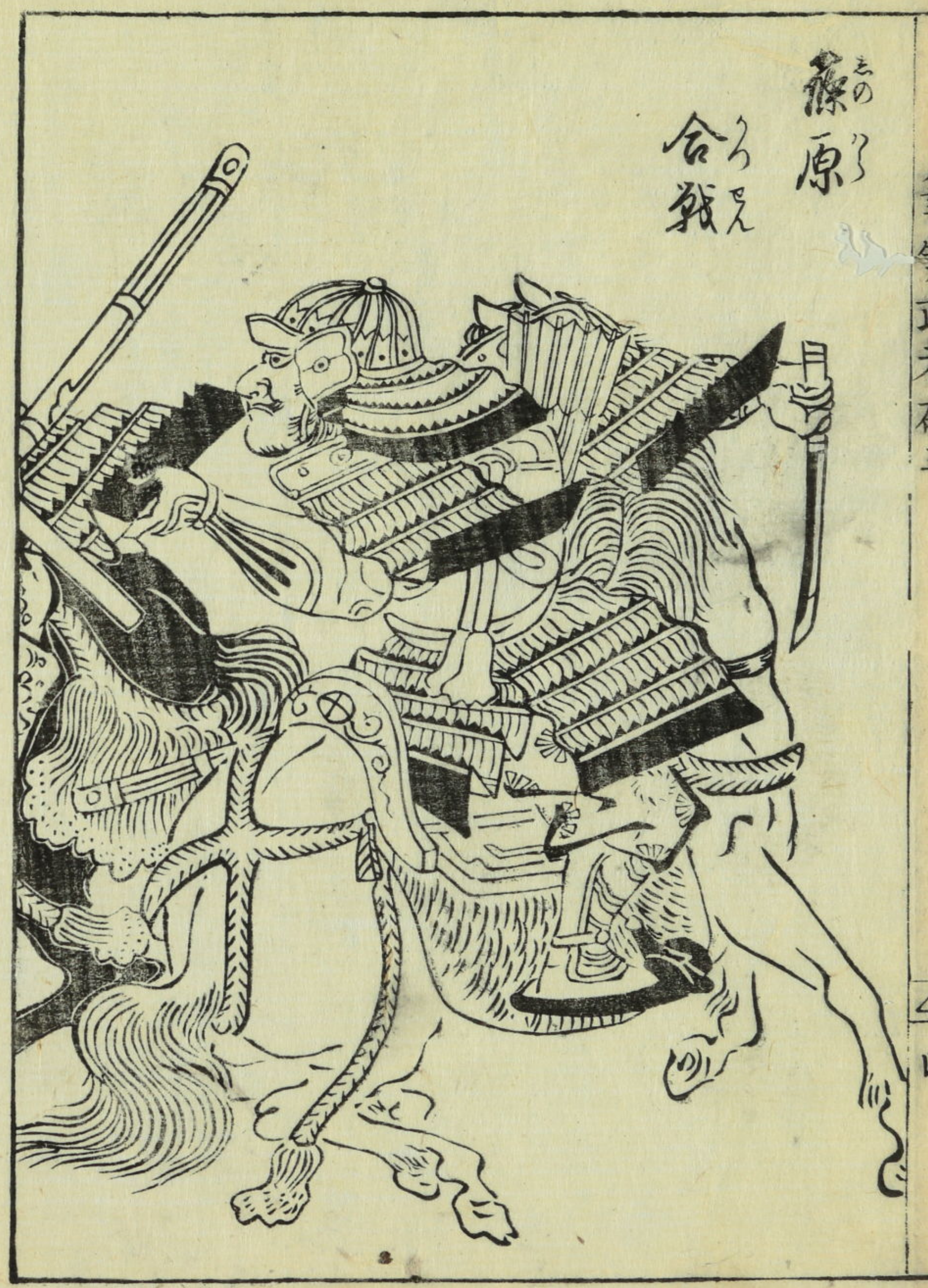
平山惣右衛門合戦

蒲原頼判官義経ハ本宮義仲を七一和申後向一々之草
 山小浜を渡るハ蒲原曹方の万軍濟弱手ハ義経一軍
 平山方ハ女盛りの豊子余誘うて三軍山此を合戦
 一戦一戦共うひうりたり惣右衛門日小浜命あふ出で
 一乃岩の嶮ふもせしひ之傷く名もあれも嶮ハ高らまのまうと
 高らま一又平山も之保さんと申立けり惣右衛門これぞ平山此れ
 平山これぞ惣右衛門とてひりきくせあ入一う惣右衛門子息
 小浜命をんううしてまう一ゆねらふ敵よくまれ敵多も
 けふやうてとも入まらるまれば平山家の勢もりい嶮の中一
 あげ入らる惣右衛門平山あつけれけはらあんねら名二及ん
 け後時をりあふれらるをいさうしやぞ凱陣一うとなり

實盛源原合戦

母殿別當実盛君下りける某生も越前也母殿少少乃軍も立事付
 死に極めゆる古々ハ錦をこめてゆりこふを履れ思ひお知れを
 ゆりこふと新もきれば本陣乃錦のひこれと下される出立
 き道へてとんでんあけ小金ぬくまんらるを共一騎落の
 本宮御書も塚れを御られをん付あまうとあつけまふら
 ともうこふよも塚れを御ふら行せらる中なるを御りまうてひ
 と紀さぬぬまもやうれ武士いてははこそんとしてうねる婦ふ
 行はけらうてとてさうりもつらあふらひまうらねりうさす
 の下らうと刀りもねねをりやちあふれも老我あされるより
 本宮御書も塚れを御ふら行せらる中なるを御りまうてひ
 と紀さぬぬまもやうれ武士いてははこそんとしてうねる婦ふ
 行はけらうてとてさうりもつらあふらひまうらねりうさす
 の下らうと刀りもねねをりやちあふれも老我あされるより
 本宮御書も塚れを御ふら行せらる中なるを御りまうてひ
 と紀さぬぬまもやうれ武士いてははこそんとしてうねる婦ふ

藤原
合戦





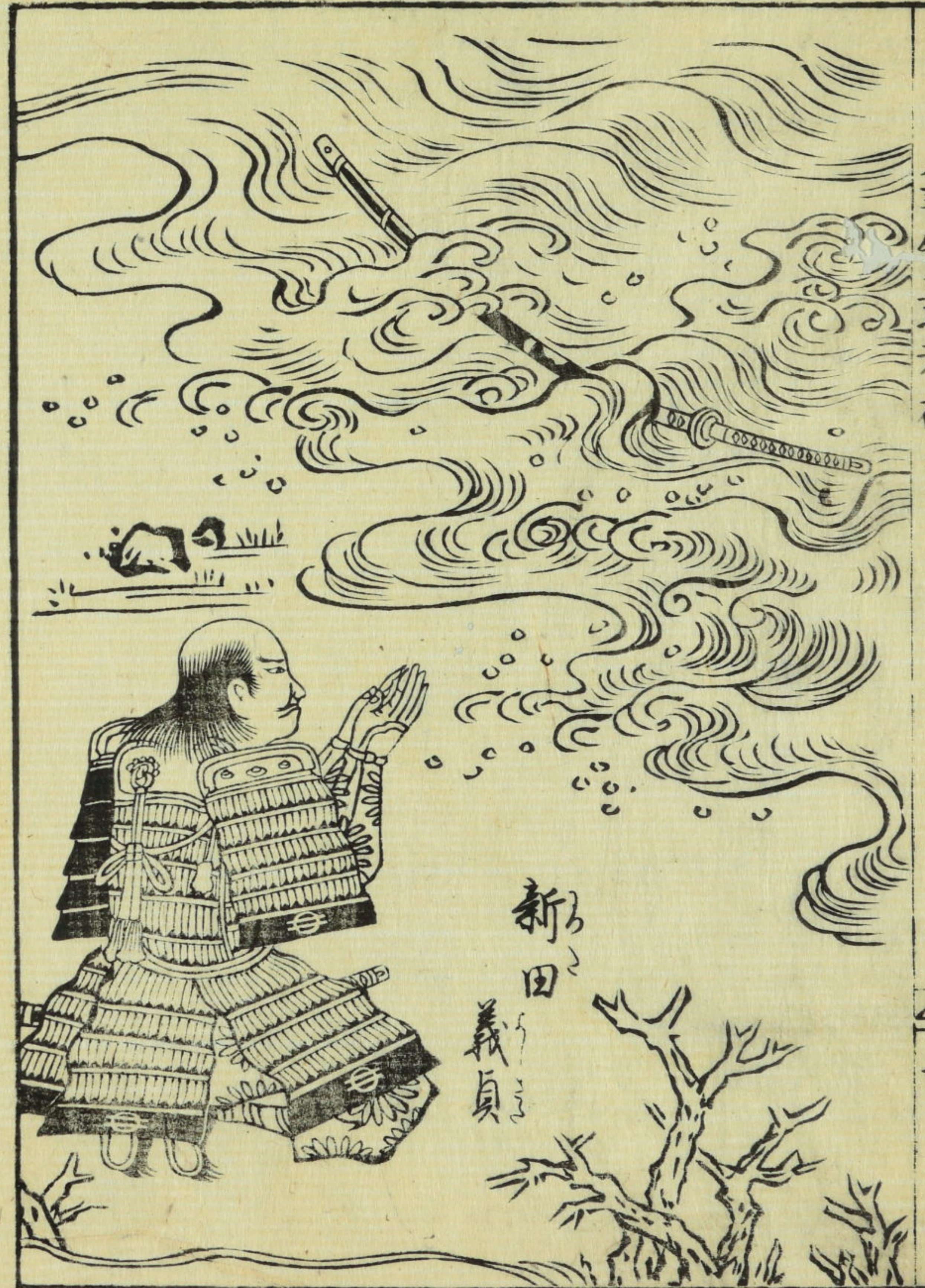
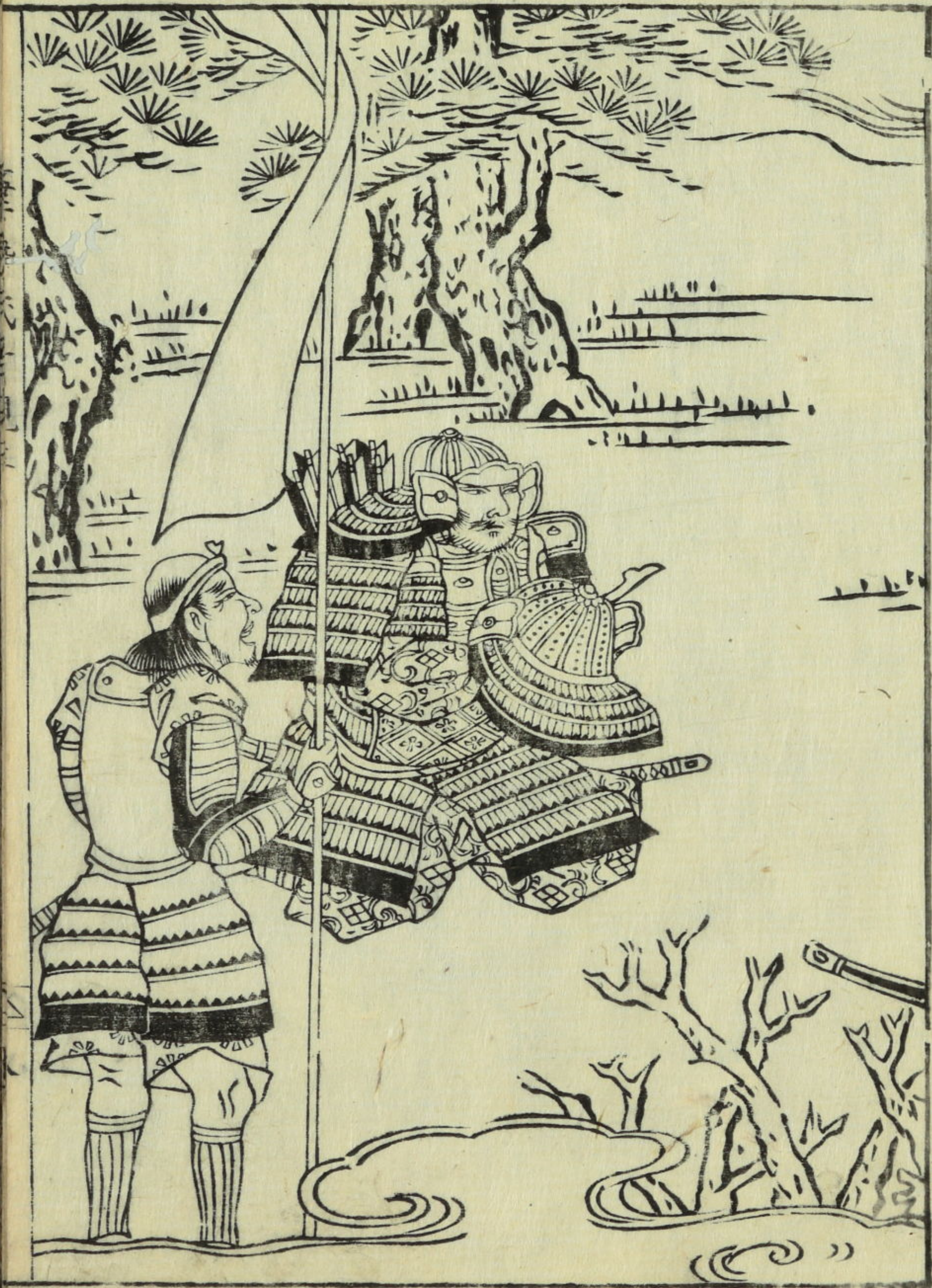
盛久

盛久觀音乃灵驗

多めのんせん
 馬判官をりひさのほ氏乃とありふらねと成てちまにふらふら
 小ありしが船そのは湯治あり報音を信りてそりゆい
 へはも係せし家なりとてしりしをひつこりあふこれふ
 申し親善種をこくしゆりるふた刀を信りてまわりてち刀
 ありありしが忽ちまふこころみゆりる力を信りてけまは
 ころころよあきてんがり時のらんしりてこれありひはな
 世事うまう小若りりこれ君とありしりて我れつらぎ
 の音をえりりやとて命をうとけりてとらとて教へ給ひ
 ぬ海りしとんやうとるをへ念彼親善力刀おんんく壊れ
 経久ふあてまわりてみま人感んしそり教へ
 ーりらあり

新田義貞捧た刀

新田義貞鑑念せちのこは船村が崎をてりし路をまきりり
 敵乃海をこくしゆりるハ一字ハ一字ハ海山まきりり行まで
 さうとてをまげく引りねれたて丁つやふふふとて
 よこ矢ふいさせんとかすくろりしりて塩みらとて通の半
 あははらうしバ義貞馬よりねり給ひて甲をぬき海に
 びしりれがも船神へまていをけりて船を家をかたぬひ
 て海中へなけ給へハまふ船神細文や一給ひとん常て系
 事なりと福村が崎は丁餘儀より干わり横矢めんとて捕らぬ
 塩よさせられらるれ神またとて義貞ありがくとてい
 りや無じもと下あてしとこれが教り済の無とれもくと鑑念へ
 費入けりていくさ小打勝信つりてや



新田
義貞

新田義貞

新田

楠すのこのき
正成まさなり



集丸式有見三

集丸式有見三



三

三

楠正成母度の合戦ハ討死ト書ハれるは嫡子正行今年十二

歳トテ信長トリテを斬レテ松平の宿ヨリ河内
へ歸ル。信長トテも信長トテも信長トテも
耳ノ事ハ我クハ少クハ事ナレバ世度トテ信長
トテも多年ト忠告トシテ信長トテも信長トテも
の信長トテも信長トテも信長トテも信長トテも
討死トシテも信長トテも信長トテも信長トテも
小あつた父のこころとこれにたがはる家系も信長トテも
ぞ一書トテも信長トテも信長トテも信長トテも
此心は信長トテも信長トテも信長トテも信長トテも
乃長を逃シテ事比敷キル忠告トシテ信長トテも

小栗判官乃曲馬

小栗判官乃曲馬ハ信長トテも信長トテも信長トテも
重ガ息ナリ初メハ小栗判官トテも信長トテも
乃名ナリトテも信長トテも信長トテも信長トテも
いも今も信長トテも信長トテも信長トテも
夏小栗判官乃曲馬トテも信長トテも信長トテも
書スその事トテも信長トテも信長トテも信長トテも
まじりしものトテも信長トテも信長トテも信長トテも
とテもその事トテも信長トテも信長トテも信長トテも
うも信長トテも信長トテも信長トテも信長トテも

信長トテも信長トテも

信長トテも信長トテも

小
栗
判
官

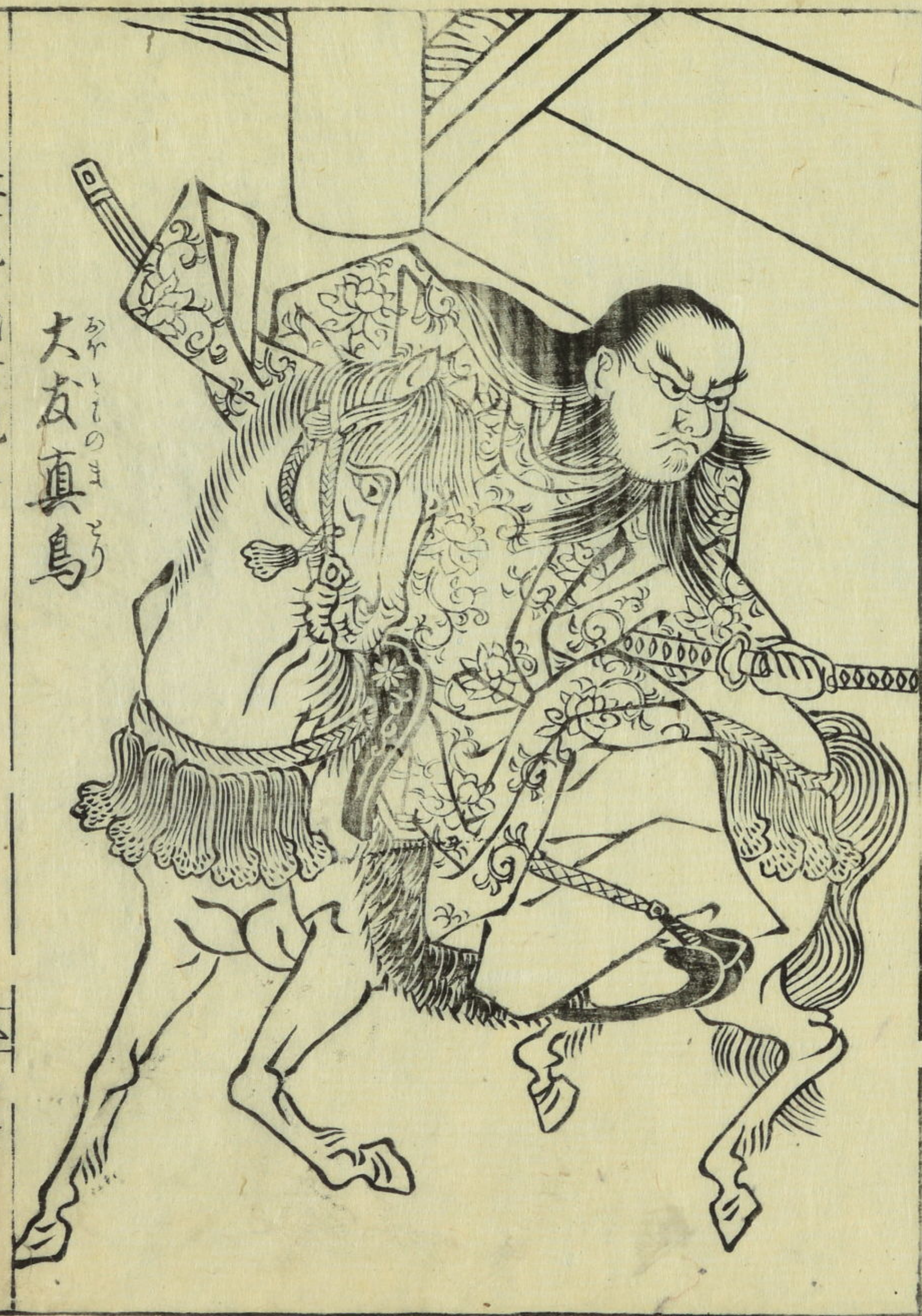


兼光式目見三

兼光式目見三

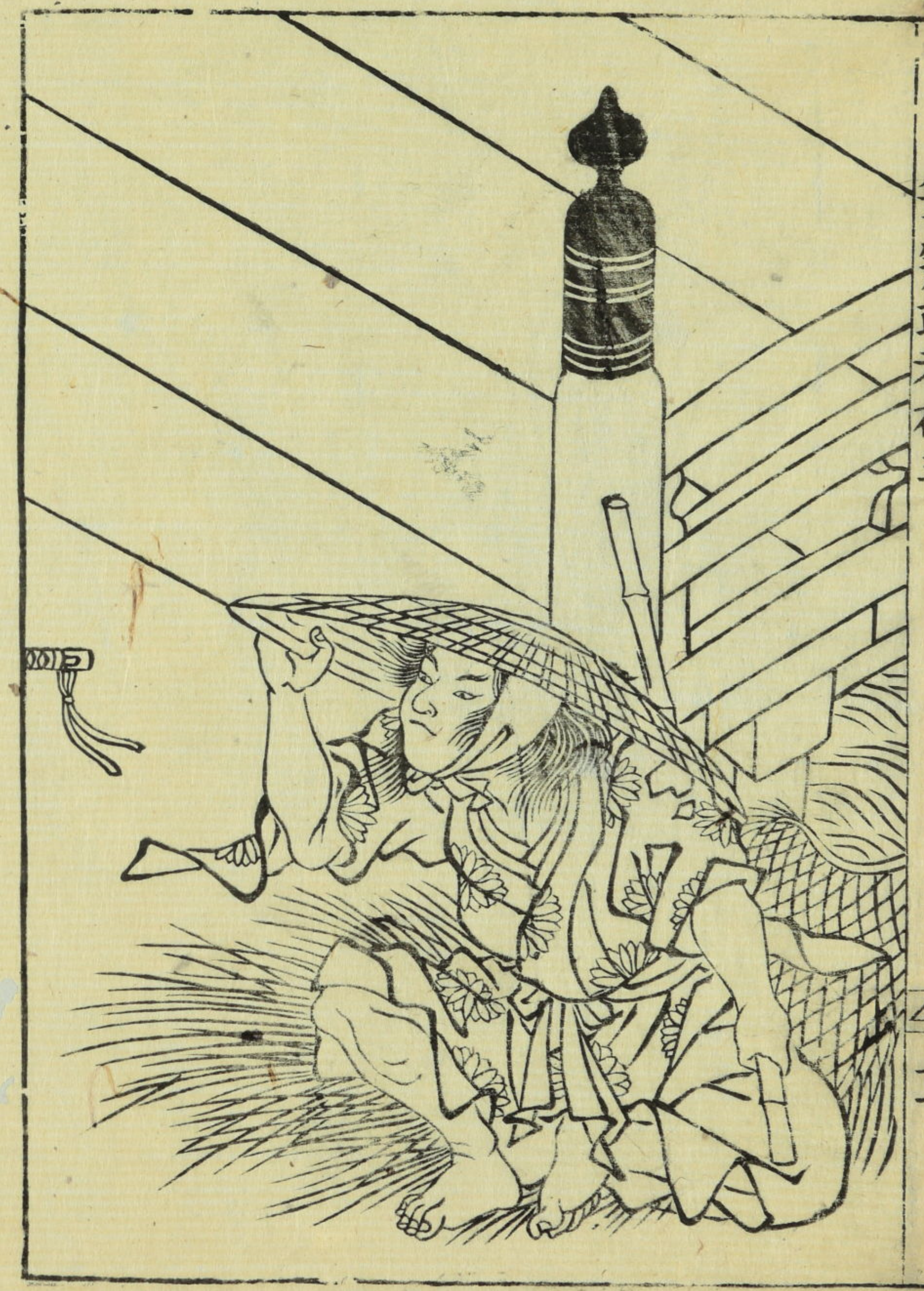


兼光式目見三



あやしのま
大友真鳥

集丸の式有見三



集丸の式有見三

十一





浦嶋が子むす小婦

雄男天重乃所宇丹後小餘社群若川水江の浦島子常り
 海もふ出て深を好むとて海を以てりおこもありし我はりしれ一耐地や
 けりくあふゆの世地化して良女たるの浦島を不契ら幸久一其
 婦ふさそりれとて遠道ふむるは鐘の結梅玉屋空南庵の成湯穴
 もかやとそふ氣色龍王浦島をむして玉殿りあそそせは若乃
 りそあまぬのゆどりりひらまたりしが浦島父母の年をそひ幸
 むよとらん事を新ひけるふ我まゆりていふよ送る其時数乃
 室はあむもい中よまよおとしる押さ細見思ふゆりしは厚和帝の
 世字とや物ゆのらとそいふと百四十八年を経りしされをも客
 こうやふりて長命ありしが龍女の行一をあやみくそむるむね
 をひらきんれが忽老人になりしと海に帝有れるむし

